# WHY THE WHISTLE WANT（第 9 版 1973 年）4.FORWARD!

ラグビーではボールは後方へパスしなければならないしノックオンはいけないということはよく知られています。観客もそれを好意に持って見ています。前方するのに後方にパスというのは奇妙なようですがハンドリングゲームであるラグビーの基本的なことです。ボールを前に進める唯一の方法は足を使うことです。この重要な問題について明確にしておかなければならない 1〜2 の点があります。

**「前方」ということの意味するもの**

フォワードパスやノックオンの根本的要件は手または腕から直接に相手側フィールドの終点の方向に進むということです。例えばボールがフィールドを後退したケースです。あなたがボールを味方のゴールラインの方向に落としてボールが相手ゴールラインの方向へ転がってもそれはノックオンではありません。

問　風についてはどうですか

ボールが正しく投げられその後突然に風に前方に吹き流された場合フォワードパスでしょうか。

答　決してそうではありません。ラグビーでは風は計算に入れないのです。キックについても影響のあることです。一旦ボールが原因となる物（例えばタッチ、25 ヤードライン、クロスバー）に達した後風が後方へ吹き戻したとしてもそこに達したものとします。

問　風を確かに計算に入れることもありますね。

答　はいそうです。その通りです（ノットストレートが例です）

タッチから真っすぐに投げられたボールが曲がってしまった場合です。

問　ボールがひじで軽く前方へ突いた場合は。

答　結局ノックオンになります。

**ノックオンかそれともノックオンでないのか**

スローフォワードは常にスローフォワードです。しかし全てのノックオンはノックオンというわけではありません。次の場合は規則上ノックオンでないのです。

(a) ボールをパスやキックを受け損ね前へ落とした時（ハンブル）やボールを拾い上げようとしてボールが地面に付くか他のプレーヤーに触れる前に再びキャッチした場合。

(b) 相手のキックをチャージしようとして行動しボールを前へはじき落とした場合です。そのボールが地面に落ちたかそうでなかった場合もそうです。
ボールを拾い上げようとしてハンブルし、ボールが確保の状態になる前にグラウンドを前進し相手 FW とコンタクトなる場合はノックオンであることはこのことから明らかです。そしてそれはついでながら熟考された上でノックオンにすることは全く規則違反です。例えばインターセプトしようとしパスがはるかに前だったので相手のパスを叩き落とそうとしてボールをピッシャっと叩き落としてはいけないのです。
10 条 2(c)故意のノックオンという言葉は使われていない（takes a forward swat）が故意にボールを叩き落とすことは反則です。

**後記　復習しましょう**

スローフォワード、ノックオンで最も大切なことはボールを propel 進めることです。propel（drive or push）という意味です。方向は相手のゴールライン（現在はデットボールライン）。真下、真横は前方ではないのです。真横に投げられたボールは投げたプレーヤーの慣性の働きで少し（パスの長さが 10〜15m ならば 20cm 位まで）前に流れるがその場合はスローフォワードではないと考えられましたが、現在では常識的に混乱をさけてほとんど適用されません。

ゴールキックの時にタッチジャッジが立つべき位置は 1 人はゴールポストのすぐ近くでクロスバーを越えたかどうかを判断するのですが風に吹き戻された場合のことも注意しなければなりません。

ハンブルについてはボールを持っているプレーヤー以外はタックル出来ないのですからお手玉状態の相手に対しては瞬間迷います。結果的に遅れて不利になりますし、中途半端な気持ちと動作は危険なもとになります。deliberately 熟考した上での判断は難しい問題です。

2011.09.11
西川　義行